

# 迎春

謹んで新年のごあいさつを申し上げます

## 年頭に当たって

高山村村長

後藤 幸三



新年明けましておめでとうございます。

村民皆様には、ご家族お揃いで平成28年の新春を健やかに迎えのことに、心よりお慶び申し上げます。

昨年は公私共に、大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。引き続き本年も、どうぞ宜しくご指導をお願い致します。

昨年を振り返ってみますと、一昨年の2月14日〜15日の豪雪の後遺症が続きここにきて、2年近くの歳月をようし、それが、やっと

癒えて、イチゴの生産体制も出来たようです。そして9月9日〜10日、鬼怒川流域を襲った台風18号の記録的な豪雨で鬼怒川堤防が決壊して、大きな被害が発生致しました。いまだき堤防が決壊するなど考えられませんが、やはり、氷が解け液体化した水分が増えている状況です。温暖化による気候変動と推測されま

す。本村は災害等に強いといわれますが、これからはわかりません。高山村の防災ハザードマップに、赤く表示されている地域では特にこの台風18号の様に2日間600mmの大雨に襲われたら、どうでしょう。きつと災害に見舞われること

になりますから、平素から防災ハザードマップを見て地域ごとに、それぞれが避難体制を確認して頂ければと思います。

昨年は、日本創生会議の増田レポートを受けて地方創生人口減少対策会議の策定等慌ただしい一年でした。

本村でも昨年「まち・ひと・しごと創生総合戦略検討委員会」を立ち上げ、37名の村内外の皆様にお願ひし、5回に渡り検討委員会を開いて参りました。

しごとでは農業、ひとは教育、まちでは観光の3つの柱とし

「しごと」では農業のブランド化に向けての取り組み「ひと」は子育てに関する支援体制や充実した教育の推進

「まち」では歳時記など村の資源を活用した文化交流の推進や伝統文化の伝承の推進の課題として県道36号線、及び国道145号線の改良工事をあげます。

これらを踏まえて本村を「笑顔で輝く高山村」にしたいかなければなりません。本村は、周りの市町村へのアクセスが良く、交通インフラを十分生かすと共に、本村の魅力を発信していき

たいと思います。本村へのアクセスを待っているのではなく、ホーム

ページやフェイスブック(Facebook)やツイッター(Twitter)等での配信も試みたいですが、特に保・幼・小中の行事や海外研修・海外相互交流など、また、歳時記や伝統芸能等、多くの方々に紹介していけたらと思います。

一昨年4月にオープンした道の駅ですが、農産物も品数、量とも増えて、内容も徐々に良くなってきました。月30万円以上売り上げる人も数人いるようです。努力すれば、かならず結果がついてきます。

道の駅も進化をしていますが、緑地公園化に向けての皆さんに計画策定をお願いしてまいりましたが、昨年暮れにレイアウトが固まりました。楽しみな本年、2016年にしていきたいと思ひます。

結びに村民皆様の今年一年がよりご健勝で素晴らしい年になります様、心からご祈念申し上げ新年の挨拶と致します。



## 年頭にあたって

高山村議会議長

有馬 嘉太郎



明けましておめでとうございます。

村民皆様には、平成28年の新春を健やかに迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

旧年中は、議会活動に對しまして、ご理解ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年4月には、高山村議会議員選挙が実施され10名の議員が誕生し、新体制でスタートをいたしました。

議会は、地方公共団体の意思決定機関であるという基本認識を深める中で、議決権、

チェック機能を適切に遂行し、行政と節度ある連携を深め、責務を全うしていきたいと考えております。

さて、新しい年の最重要

課題は、まさに全国の自治体共通の悩みである人口減少問題であります。人口減少に特効薬はないと言われておりますが、人口減少を克服し将来にわたって活力ある地域社会を実現するための5カ年計画を、国の「まち、ひと、しごと創生法」

により、市町村は地方版総合戦略を策定しなければなりません。近々本村でも策定されると聞いておりますが、少しでも緩やかな減少に留めるべく効果のある施策は当然進めていかなければならないと思っておりますが、必要以上に悲観することはないと考えますし、皆で知恵を出し合えば、存続、持続的発展の道はあると思えます。

昨年行われた農林業センサスの速報値によると、農

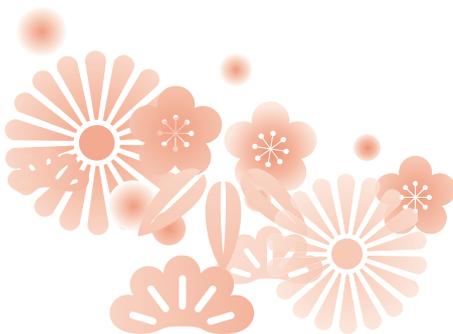
業就業人口が全国では200万人割れに迫り、県内でも高齢化で前回調査の5年前と比べると23%減り5万人割れし、T P P大筋合意を受けての影響で、就業者数の減少に歯止めが掛からないとの報道もあり、これも大きな問題であり農業振興策と合わせて、T P P対策を国の責任として確実に実行してもらいたいと思えます。

村活性化の切り札として、オープンした道の駅「中山盆地」もこの4月で3年目を迎えますが、利用者・売上げも順調に伸び、昨年同期では前年対比20%増の売上げの伸びをみせています。出荷されている方も140人と多くの人に利用していただいておりますし、また多くの村民の方から要望のあった子育て支援と観光振興を目的とした公園と緑地広場の整備が今年から道の駅隣接地で始まります。完成時には、中心地活性化の

拠点として、村内外の多くの人に利用を願う中で、道の駅「中山盆地」の更なる集客、売上げ増に繋がるものと大いに期待されます。

本年も地域の特性に即した諸課題解決のため、議員一同決意を新たにして取り組む所存ですので、変わらぬご指導ご鞭撻の程をお願い申し上げます。

結びに、村民皆様にとって今年一年がより良い年となりますよう、ご健勝ご多幸をお祈り申し上げ年頭のご挨拶いたします。



## 年頭に当たって

高山村教育委員会

教育長 高橋 直幸



新年あけましておめでとうございます。

村民皆様にはご家族お揃いで平成28年の新春を健やかなうちに迎えられたことと、心よりお慶び申し上げます。

旧年中はひとかたならぬご指導とご鞭撻を賜り、誠にありがとうございます。おかげさまで学校教育、社会教育等、本村の教育行政を順調に進めることができました。本年も変わらぬご支援とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年を振り返る時、高山

村においても国際化やグローバル社会の潮流を実感させられたことが印象深く思い出されます。高山村中学生海外派遣事業として、毎年交流関係を持つているオーストラリアのトーマスハッサール校の生徒16名を、村民の皆様のご協力をいただく中、本村に迎えることができました。4月9日(木)～11日(土)、2泊3日の日程でホストファミリーとして生徒を受け入れていただき、温かい交流を深めていただきました。

こうした身近な国際交流の経験が、本村の子どもたちに国際感覚を培ってくれるものと改めて強く感じました。それぞれの家庭での温かなおもてなしは、生活文化の違いを超えてオーストラリアの子どもたちの心にも深く響いたものと考えます。このことが小さな国際交流の推進元年となり、本村に定着してくれるよう

願うものです。

また、第54回吾妻郡民体育祭の開催担当村として、村民の皆様のご理解とご協力をいただく中で、高山村の力を郡内に伝えながら無事成功裏に終了できたことも忘れることができません。特に、9月27日(日)郡民祭メイン日には、中学校庭において陸上競技を中心に熱戦が展開されました。町村の応援にも熱が入る中、各町村婦人会員による民踊が披露され、本村からも約130名の方々に加わっていただき、グラウンドいっぱい民踊の輪が広がりました。

グラウンドに広がった大きな輪は、熱戦の中での一服の清涼剤となり、見ている人を引き込むような雰囲気がありました。本村の民踊参加者からは、「高山村の婦人力」と郡民祭を成功させようという熱い思いが伝わってきました。長期間にわたる準備と練習の成果が遺憾なく発揮された瞬間でも

あった、と考えています。やり遂げたという成就感と明るく笑顔に満ちた集合写真、そのことを雄弁に語るものとなりました。ご尽力頂いた関係者各位に改めて感謝申し上げます。

また高山村の特色ある教育として、学びの連続性に着目した幼保小中の一貫教育の具現化を目指した取組も「たかやま学びと生活のやくそく」をもとに、実践の継続・定着化が図られてきています。これは、子どもたちの発達段階に即した学習と生活の約束を、その時期にきちんと身に付けさせることを大きなねらいとしています。しかし、この取組は学校や園等の中だけで完結するものではありません。引き続き村民皆様のご理解とご協力をいただきながら、「生きる力」を身に付けた子どもたちを育てていきたいと考えています。

依然として村や子どもたちを取り巻く状況には厳し

いものがある中で、小中学校におけるICT環境の整備に着手することができました。これも関係各位のご理解ご協力の賜と厚くお礼申し上げます。平成28年においても知恵を出し合い、諸課題の解決を図るとともに、高山村に培われてきた絆の強さに支えていただきながら、社会の変化や教育界の潮流をしっかりと見据えた教育行政を執行していく所存ですので、よろしくご指導のほどお願い申し上げます。

結びに本年が村民皆様にとつて幸せに満ちた、充実した年となりますようご祈念申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

